



# KIFA Plaza

第19号

1993年10月25日発行

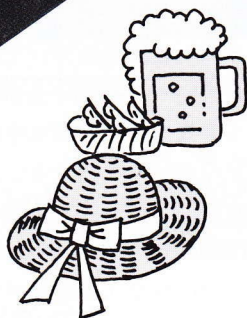
〈発行〉

鎌ヶ谷市国際交流協会

編集・広報部会

## 市民夏まつり

KAMAGAYA  
SUMMER FESTIVAL



### KAMAGAYA SUMMER FESTIVAL A BIG SUCCESS

Kamagaya's summer festival was held on August 28 in fine weather. Under the KIFA tent many foreigners gathered to talk with each other and the local Japanese. Everyone looked like they had a good time celebrating the last days of summer.



8月28日(土)貝柄山公園で行われた市民夏まつりに国際交流協会も参加。各部会ごとに趣向を凝らし「KIFA」の名が少しでも市民の間に浸透するようにと大奮闘の一日でした。

「外国人と会話をするコーナー」が設けられたテント内は、楽しそうに交流する人々で賑わっていました。



7月26日(月)、ユートレックセンターより、派遣されたカナダの青少年3人が、鎌ヶ谷市長を表敬訪問した。歓談の最後に、市長から3人に、city flagが渡された。その後、市役所6Fの議場を見学し、市役所の方から説明を受け、3人が1人ずつ議長席で、写真をとりました。議長室にも飛び入り訪問した。

午後5時から、交流部会による歓迎会が、ホスト・ファミリーの宮崎さん、小川さん、山川さんを混じえて、和やかに行なわれた。

## KAMAGAYA WELCOMES CANADIAN STUDENTS

3 Canadian students got a taste of Kamagaya life. On July 26th they took a tour of Kamagaya City Hall.



*This has been a wonderful experience visiting Japan, and I will always remember the country as well as the people. Thank you.*

Shanna Bennett

この日本訪問は、私にとって素晴らしい経験となりました。私はこの国を、この国の人々を、いつまでも忘れないでしょう。ありがとう。

シャナン ベネット



## WHAT'S UTREK?

Utrek is a non-profit organization which organizes 3 week youth exchanges, homestay programs and international outdoor camps for the promotion of international awareness, friendship and education. The theme of UTREK is: "the exploration of the interaction between culture and nature."

ユートレック国際交流センター(国際交流運営機関)が行なっている青少年受入プログラムは、アメリカ・カナダ政府直轄の各青少年教育機関と共同で、進めている同年代の青少年同士の相互交流の一環です。

Bring the world to your home(世界をあなたの家庭へ)の標語のもと、毎年アメリカ・カナダから来日する青少年を家族の一員として迎え、日本のふつうの家庭生活を体験してもらうものです。

# Bring the world 世界をあなた



*This has been a wonderful trip to Japan, I have had a great time. Thank you for helping make it more enjoyable. Thanks very much.*

Kelly Deiss

この日本への旅は素晴らしいものでした。貴重な経験を沢山させて頂きました。この旅をより一層楽しいものにして下さった方々に感謝の気持ちで一杯です。

ケリー デイス



*Thank you for the party. I think KIFA is an important part of Kamagaya city. It helps different cultures interact.*

Blair Foulkes

このようなパーティを開いて下さってありがとうございます。「KIFA」は、鎌ヶ谷市にとってきっと重要な協会なのだと思います。それぞれの違った文化が影響しあうのを、このように手助けできるのですから。

ブレア フォークス





# to your home たの家庭へ

## 勇気ある初めの一步、 それが地球家族を作る

### —小川ファミリーが贈るメッセージ—

好奇心で始めたホームステイも今年で5年目、6人の学生と友達家族を入れて10人の外国人が泊まった。「オレゴンから愛」のテレビドラマを観て「オレゴンに行きたい。」と言ったら夫に笑われた。ところが平成元年にK・I・F・Aで計画したホームステイがオレゴンでした。

私は運命的なものを感じて家族を説得し、受け入れました。その時娘達は高校2年と中学3年生でした。彼女達の勉強の為になんて、私は将来英語を使う事はないと高校の成績はペケ、挨拶も喋れる状態ではありませんでした。家族も一番だめだと笑っていたが本当に外国の娘の話す英語はテープの早回し、聞き取る事は全く出来ませんでした。頭の中が真白のまま興奮と寝不足で4日間はあつというま



でした。1週間がたち彼女から礼状が来ましたが、返事を出しませんでした。すぐ「私の手紙は着いてないのかととても寂しい。」申し訳無く思い返事を出しました。彼女は英語、私は日本語の文通が1年。書く事もなくなり「貴女の両親にあってみたい。」「国が見てみたい。」などを書いてしまい「いつ来るんだ。飛行機のナンバーを教えろ」との便り、家族に「日米条約だから行って来るわ」という事で行って来ましたオレゴン。4泊5日の世話をしただけなのに大歓迎、夢のような経験をさせてもらい浦島太郎の心境でした。その後テキサス・ワシントンDC・オーストラリア・カナダと毎年6・7月頃受け入れた。ワシントンDCの娘は黒人で浦安でことわられて我家から4ヶ月上智大学に通学しました。

彼女は高校の時、八千代に2ヶ月幕張高校に通学して今度で2度目だったので日本語が喋れました。実は私の両親は戦争体験者です。父は戦地のビルマで負傷し傷痍軍人として帰国私が産まれました。夜になると山の中の家でテレビもなく酒を飲みながら子供達を前に戦争は絶対にしてはいけない、戦争のつらさ恐ろしさを毎夜聞か

されて大人になり今敵国であるアメリカ人をホームステイした時の父の心は複雑だったろうと思います。でも私がオレゴンに行きワシントンDCの娘は父母にとりもなつきやさしく接してくれたのでホームステイを理解してくれました。1昨年次女はワシントンDCに暮れから正月に友達と2人で行きました。ホワイト



ハウスの大統領の演説台で写真を撮ったり、地元のアメリカ人もホワイトハウスには入れないとの事、しかし彼女のお父さんが副大統領のクェールさんと友達だったので実現した。

オーストラリアの娘は11才と幼いので食べる物が難しかった。私の作る物は食べないのに外食するとよく食べた。悩んだけれど2週間勉強させてもらいました。

昨年6月にシドニー・ゴールドコースト・ブリスベンの彼女の家に2泊ホームステイさせてもらい、両親の前でとても我がままで、日本では彼女なりに努力していた事が解りました。今年と昨年はカナダのバンクーバーとブリティッシュコロンビアから、やはり2週間、そしてオレゴンの娘が昨年の9月から今年の5月まで京都にホームステイしながら同志社大学に通学している間11月に再び友達と一緒に来宅し、4月には彼女の両親が2泊3日でしたが私の家族や両親と初対面と思えない親しきで接してくれ楽しい交流がもてました。文化も言葉も違う異国の人が家の中に居るのだから大変な面もあるが、数倍も得るものと学ぶものがある。カルチャーショックをお互いに感じながら別れ、再び会えた時の喜びは日本人も外国人も総て人間は同じ喜びを感じるでしょう。

良い所だけを書いたように思われるでしょうが、ホームステイは自然で無理をしないで、もうこりごりと感じるような世話はさける。言葉が通じなくとも心は通じる。人類皆兄弟といいますが本当に実感しますよ。

小川澄子







## KAMAGAYA HOMESTAY STUDENTS RETURN FROM NEW ZEALAND

The Kamagaya students who homestayd in New Zealand this summer returned to Japan August 18. They visited several cities in New Zealand such as Auckland, Tauranga and Whakatane.

### 牛も、男の生き方も自然流

山下 芳男

私たちの訪れた八月は、北半球の二月に当たる。日本流に言えば立春を過ぎた頃になるが、このシーズンは動物達の出産ラッシュでもあった。

私のステイ先、ワカタネ郊外、リードさんのお宅でも毎日のように牛の出産が見られた。日本のそれと違い自然に分娩していた。常春といわれる北島では、牛は一年中外で飼われているが、人の手を全く借りないで牧草地のあちこちに子牛が生み落とされているのである。

一年中緑を保つ牧草地も、秋に当たる五～七月には生育が悪くなる。その時期になると、搾乳を中断する。搾乳を止めることで乳牛の食欲を落とし、牧草を維持していくという。

そして、その時期は楽しみな期間でもある。毎日の乳しぼりから開放されることで、自分のやりたいことに当てる。リードさんは、こういう機会を利用して日本に6回も訪れている。

日本の七割の国土に人口3百万人という余裕がなせる技であろうが、こんなところに日本とは違うニュージーランド人の生き方の原点を見たような気がする。



タウランガのマ



ワカタネの地方紙に紹介されました



ロトルアにて



タウランガ市長表敬訪問



# 再をこえて



ンガヌイ山より

## 1993年度青少年海外派遣事業

8月4日(水)～8月18日(水)の15日間、ニュージーランドのワカタネ市におけるホームステイを中心に各種公共施設の訪問とタウランガ及びワカタネ両市長の表敬訪問を行い、交流・親善を深めてきました。

8月31日には、鎌ヶ谷市長や市議会議長をはじめ鎌ヶ谷市国際交流協会理事の皆様へスライドやビデオにより、その成果を報告いたしました。

また、派遣者の皆様は、この貴重な体験を地域の国際交流はもとより、協会の活動に生かしていきたいとはりきっています。



オークランドの個人農場



## 民族を越えて

### 大3 関 さやか

今回の旅は、表敬訪問やファームステイや観光と、普通の観光旅行では体験できない価値あるものでした。

特に表敬訪問においては、鎌ヶ谷市の代表として行ったわけですから大変緊張しました。私達は、たくさん質問をしましたが、その中で私が印象に残った事は、マオリという先住民についてでした。ニュージーランドでは、かつて、マオリと白人による対立から戦争という事実もありましたが、現在では、とてもうまくいっています。

例えば、マオリは先住民としての敬意から白人よりも多い保障を受けたり、高校でのマオリ語教育などです。マオリ語は、白人も勉強する事ができ、実際、私達が訪問したタウランガ市長は、かなりマオリ語が話せるそうです。ニュージーランドでは、異なる民族同志が、他の国々よりもずっとうまくつきあっていると思います。

私はこのニュージーランド独特の文化、マオリと白人の関係に大変興味を持ちました。

私は、これを報告書のテーマとして、もっと調べ、よく考えてみたいと思います。



オークランドの酪農・農場視察



## 僕のニュージーランド観

高1 紺野 草一

僕がニュージーランドに行って、一番印象に残ったことは、ほとんどの人が笑顔を絶やさずに接してくれたことと、緑の割合が日本にくらべてだいぶ多いということです。ホストファミリーは迎える時やパーティーの時、たまたま会った時など、常に笑顔が絶えなかったので、不安がなくなり、とても気持ちよくすごせました。家でも、言葉が通じなくて困ったときでも“Don't worry” “Take it easy” と笑顔で話してくれたりしたので、間違えて落ちこむことがあまりなかった気がします。最後の日、別れる寸前でも彼らは笑っていてくれました。



次に緑について話します。ニュージーランドは国土の割に人口が少ないので、緑が多く残っており、たぶん、開発地区と緑の地区が半々ぐらいに感じました。街の中、例えばニュージーランドの大都市オークランドでも、街の中に緑を取り入れていたり、郊外の住宅地に緑が多く残っているなど、自然環境に対し、かなり重要視しているように思えます。みなさんも自分の回りの自然環境に対してもっと重要視する事や、人々との触れ合いの時の相手への配慮が必要なのではないでしょうか。

## 海外に出てみて

高3 沖野 浩子

なるほど。と海外における日本の影響力の大きさに感心させられ、そして失望させられる事が何度となくありました。今回、国際交流協会の派遣で行くまで日本から出た事がなかった私は、外国人の中に放り込まれる心境で不安を抱いて遥かNZに着いた訳です。しかし着いたオークランドの町は日本人、日本人、日本人。日本語の看板まで。土産屋の店員は流暢な日本語で対応する。更に私の感覚を鈍らせたのは、テレビ映像を見ている様な風景。感動できないのが悲しいのか、日本の情報過多が悲しいのか。でも、ホームステイ、施設訪問の交流を通して、NZの本当の良さを教えてもらった気がします。人や日常生活の素晴らしさ。素朴さ。マオリ族の事。その国の魅力は現地の人々の生活の中にあるんだと改めて痛感しました。



しかし、残念なのはNZに限らず、国の良い所がだんだん観光地化されてしまう事です。観光に来ている日本人が一概に悪いと言うのは筋違いですが、海外ブームの日本で、観光だけで海外へ行ったというのではなく、現地の人々との触れ合いを求めてその国へ行ったと言う人が増えてくれるといいと思いました。

## 美しい地球

短大1 城島 慶子

地球は美しい。そう思えたことは、今までに何回あっただろうか。ニュージーランドにいる間じゅうずっと、私はそう感じていた。そう思えたことの第一は、どこ海でも地球が丸く見えることである。透き通った海水の果てに空とは違ったブルーで大きく曲線が描かれていたり、また、山には緑々とした木々が茂り、川には清らかな水が流れている。本当に素晴らしい風景に次々と出会えた。日本においても、海や山、田舎のほうに行けば、素晴らしい景色がたくさんある。



ところが、ニュージーランドと日本では明らかに環境に対して違うところがある。それは、NZ人の自然に対する環境保持が素晴らしいという点だ。私が気がついたその具体例は、街に、山に、海に、丘に、観光地に、ゴミがひとつもないことである。日本の海、観光地といったら、ごみのオンパレードではないだろうか。街なんていったら、たばこの吸いがらばかりである。なぜこのような差があるのだろうか。それは、やはり国民の意識の違いということになってしまうのだろう。

## 僕のNZの家族

大1 大網 將武

私が今回のNZの旅で、最も印象に残った事は、ワカタネでのファームステイです。私の家の家族構成は、父 Tony 母 Lois の二人と犬の Jess、猫の Pudding と羊13匹(子羊2匹)、ニワトリ数十羽、ハト4羽です。子どもは3人いるそうですが皆、独立していてワカタネには住んでいません。他のメンバーのステイ先は専業農家が多かったけれど、私の所は兼業農家みたいな感じで、家にはキウィ畑があったのだけど Tony の本業は近くのボイラー工場のエンジニアという少し複雑な家庭でした。彼ら夫婦だけでなく、NZの夫婦全てに言える事だが、この国ではキウィハズバンドといって夫の方がよく働くそうです。例えば、奥さんが料理を作って夫の方が後かたづけをしたりして、何かとこまめに働きます。NZで奥さんの方が太っている人が多いのは、このせいです。最初に会った時に Lois が、「NZに来たのだから日本語は使ってはダメ。全て英語で話すのよ」。四苦八苦した日々だったけれど、自分の英語力向上になりました。別れの日朝、Tony に「今日は仕事で行けないけど、又すぐ会おう」と言われたその一言に感動。「必ず又、NZを訪れたい!」と思わせるような素敵でファミリーでした。





## KIA-ORA

### 大1 真嶋 明子

KIA-ORA (キオラ) —この言葉は  
ワイトモの洞窟の中でおそらくニュージー  
ランド人のお兄さんがかけてくれた言葉で  
す。驚いたけれど、とても嬉しかったです。

“KIA-ORA” はマオリ語で、NZで  
は“ハロー”といった言葉と同じように気軽に使われて  
います。知らない人同士が気軽に挨拶したりする事が、  
こんなにも人をよい気分にさせてくれるとは思いません  
でした。このようにニュージーランドは私が忘れていた  
事を思い出させてくれたり、今までの考えを変えてくれ  
ました。以前に比べ、何事にも積極的にならなくては行  
けないと思うようになりましたし、人生観も変わったよ  
うな気がします。それから忘れてはならないのが多くの  
人との出会いです。暖かく迎えてくれた私のホストファ  
ミリーや、気軽に話しかけてくれたり、親切にいろいろ  
教えてくれた人達。そして、年令、性別をこえてうちと  
け楽しく旅をすることができた9人のメンバー達と会え  
た事もとても嬉しく思っています。

私にこんなに沢山の経験や思い出を与えてくれた全て  
の人々へ感謝の気持ちでいっぱいです。



## 私の国際交流観

### 大3 道本佳奈子

利害を越えて、習慣の壁をこえて、同じ  
地球に住む者として、手を取りあってゆく  
ことを時代が要求し、“国際交流”が生まれ  
た、と私は考える。



私達若者と、親の代とにすら、世代のギ  
ャップを感じる事がたびたびある。そのくらい、文明  
の発達のスピードは進むほど、より速さを増す。文明の  
発達とともに、人間もかわってゆかねばならない(意識  
を拡大してゆかねばならない)のに、人間はもはや文明  
をもてあましている。自国の利益を追求していた昔とは  
時代がちがう。相互理解と協調の自覚をもてば、各国間  
にあるさまざまな問題等、解決の方向にむかうだろう。

自分らしさ、を追求し、生をまっとうしようとするこ  
ろから、自然に生まれる“相手を知りたい”欲求。そ  
れにより生まれる交流が真の国際交流ではないだろうか。

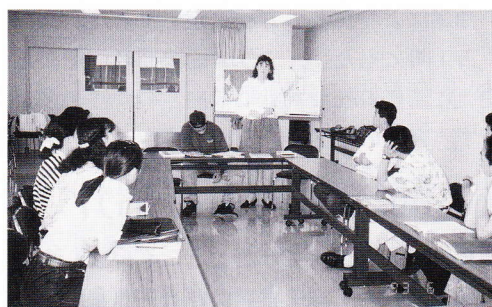
“We are on the earth to love each other” と、ス  
テイ先のお父さんが私のノートに書いてくれた。もしか  
したら、生きる目的は唯一それかもしれないという気が  
してきた。急に、なにげない日常のくり返しが、楽しく  
なってきた。

## 派遣部会

●部会紹介 No.2

8月18日、本年度の海外派遣者一行は元気に帰国しました。私共派遣部会一同は安堵の気持ち  
で一杯です。毎年のことですが、事業実施につきましては、派遣先の選定・派遣者の選考・数回  
に及ぶ事前研修・旅行業者との打ち合わせ等、細かい準備が必要です。それは、この事業が最大の  
意義を持ってくれることを念じ、部長以下本当に少人数の部会員の努力でこなしています。  
そして海外滞在中はその無事を心からお祈りし、派遣者が事故もなく、実り多い経験を積んで元  
気に帰国してくれる姿を見ると、本当に良かったと苦勞も報われた気持ちになります。今後は報  
告書を作成・発行すると、一年をかけたこの仕事が終り、やっと肩の荷を下ろします。緑の下  
の力持ち的な仕事ですが、国際交流の一端になればと思って活動しています。

事前研修会。午前10時から午後5時まで部会員と  
派遣者と共に真剣に。



日本に留学中の高校生を招いてニュージーランド  
について研修中。すべて英語でのお話で、派遣生  
は緊張気味。

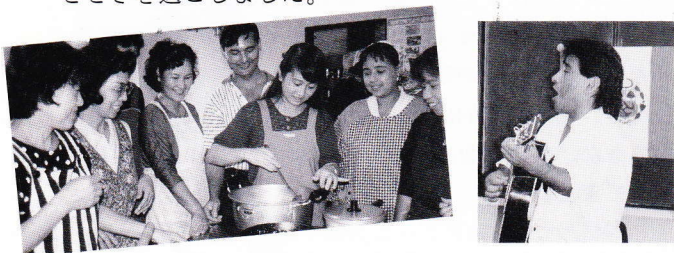


## 世界の文化交流 No.8 (交流部会)

## 南米ペルーの海鮮料理セビーチェづくり

9月26日(日)、南部公民館にて、ペルー料理の講習会が行われました。講師には Okuhama Midori & Ramon 夫妻(中沢在住)をお招きし、通訳は渡辺夫妻にお願い致しました。参加者は36名とペルー人のお客様7人とで午前11時30分より調理開始。この日教えて頂いた料理は3種類。前菜は CEBICHE (セビーチェ) というお料理で、これは日本流に言えば魚のマリネ。メインディッシュは鶏肉料理の AJI DE GALLINA (アヒ レ ガジーナ)。もう一品は SOPA (ソパ)、鶏肉の茹で汁を使ったスープです。男性の参加者も数名いらして、5つのグループに分かれ、楽しい雰囲気の中調理は進みました。

2時間後には素晴らしいペルー料理が出来上がり、どれも大変おいしく参加者の皆さんは大満足。最後にワテルさんとホルへさんの歌とギター演奏もあり楽しいひとときを過ごしました。

PERUVIAN CUISINE SERVED  
AT KAMAGAYA COMM. CENTER

36 people attended the Peruvian cooking lessons September 26 at the Kamagaya South Community Center. Everyone enjoyed the delicious seafood dishes.

日本語教授ボランティア養成講座  
鎌ヶ谷市で開催

千葉県国際交流協会主催に依る「日本語教授ボランティア養成講座」が9月10日から毎週金曜日の午前10時から2時間鎌ヶ谷市視聴覚センターにて、松本明子、品川雅子両講師を迎えて開催されております。

鎌ヶ谷市での講座は初めてとあって、市内で48名もの応募があり、抽選により16名の方が決定しました。参加者は市周辺7市1町にも及び、クラス総勢42名。そのほとんどが女性、ここにも社会貢献に前向きの女性の多さに驚かされます。今後のご活躍を祈ります。

## 法人・団体会員のご紹介

平成4年度更新・新規加入ありがとうございました。

(株)千葉銀行・(株)三和銀行・(株)千葉興業銀行・(株)星野工業  
・(有)保科発條製作所・鎌ヶ谷ロータリークラブ

平成5年度、新規加入ありがとうございました。

(株)住友銀行・(株)写真庵

KAMAGAYA WINTER  
PARTY

The Kamagaya International Friendship Association [KIFA] is making preparations for its annual winter party. Please plan on coming to this year's party..and bring a friend!

Date: November 23rd, Tuesday (Public Holiday)

Time: Doors open at 12:00.

Party goes from 1:00 to 4:00pm

Place: Kamagaya Health & Welfare

Building 6th floor. (This is the new building behind City Hall).

Cost: Foreigners ¥500 (Includes food & beverages).

Japanese KIFA member ¥1500.

Non-KIFA-member ¥2000.

## お知らせ

今年も、KIFA パーティーの季節となり、交流部会では、準備に忙しい日々を送っております。皆様、お誘い合わせの上、多数御参加下さい。

詳細が下記のように決まりましたので御案内致します。

日時 1993年11月23日(祝日)

午後1時～4時(受付 12時)

場所 総合福祉保健センター

6F大会議室

会費 会 員 1,500円 非 会 員 2,000円

学生会員 1,000円 学生非会員 1,500円

小中学生 500円 外 国 人 500円

申し込み 11月8日(月)までに、参加費を添えて  
直接事務局(市役所3Fでチケットをお  
受け取り下さい。)

問い合わせ 国際交流協会事務局(内)550



## 編 集 後 記

KIFA Plaza 第19号の作成は、私達にとって広報部会に入って初めての仕事でした。広報の経験が全くなく、文章を書くことに不慣れな二人ですが、部会の皆さんの足を引っばらないよう頑張りたいと思います。

新入部員 T・S M・T